

島崎藤村と「緑蔭叢書」

～作家の地位向上をめざして～

名掛丁東名会 梅津恵一

昨年、NHKの大河ドラマで「べらぼう」が放映され、人気を博した。これは江戸時代中期に版元として喜多川歌麿や東洲斎写楽を見出して、一躍メディア王となった蔦谷重三郎の出世物語だった。ところがこの時代、浮世絵師をはじめ、本の作家は単なる職人として扱われ一部の流行作家を除いては、版元に隷属する身分の低い人たちであった。著作権は版元が握っており、作家は出来栄に応じて手間賃をもらうだけだった。このような封建的な隷属関係は明治時代の中頃まで続いた。明治時代になると、作家は文学に芸術としての価値を見出して創作に励んだが、常に貧困に付きまとわれ、樋口一葉、北村透谷、国木田独歩など多くの著名な作家たちが惜しまれながら夭折した。このような状況を打破して、作家の地位向上の先駆者となったのが島崎藤村である。

藤村は木曾馬籠の名家に生まれて裕福に育ったが、明治維新と共に家運が傾き、教師の職を求めて仙台にやってきた。この地で藤村は日本近代詩の先駆けとなる『若菜集』を生み出した。その発刊を、当時『金色夜叉』など話題の本を出版していた春陽堂に依頼した。ところが、新体詩として発表された『若菜集』は全く相手にしてもらえなかった。そこで藤村は、かつて家庭教師をした一関の豪商、熊文こと熊谷家から借金をし、自費で『若菜集』を春陽堂から発刊した。その際、藤村が目にしたのは、作家が食うや食わずの生活をしているのに、出版業者は店を構えて店員を雇い裕福な生活をしているという対照的な姿であった。さらに、名高い先輩作家でさえ本の出版にあたっては自らの筆で自画自賛の広告文を書かされるのが実状であり、そのような現実を目の当たりにした藤村は、作家の身分の低さを痛感したのであった。それ故に、作家は教師などの職に就かなければ満足な創作活動は難しい状況であった。

藤村がのちに不朽の名作となる『破戒』を書くにあたっては、小諸義塾の教師の職を捨てて東京に移り住み、創作活動に専念した。さらには作品を自費出版しようと決意し、大胆な行動を試みた。そのための資金として信州志賀村の神津猛と岳父秦慶治の援助を仰ぎ、夫婦と子供3人を抱えての耐乏生活を送る中、明治39年ついに『破戒』が完成した。藤村は「緑蔭叢書」として『破戒』を自分で印刷所や製本屋に足を運んで出版した。そして、自ら書店に依頼して売り出した。『破戒』は出版当初から高い評価を受け、売れ行きも好調だったのだが、その代償は大きかった。藤村は幼い娘3人を栄養失調で次々と失ってしまったのだ。しかし、藤村の自費出版は当時の出版界に一石を投じ、作家に自らの地位を高めるために行動をとる必要性を自覚させた。

その後、藤村は「緑蔭叢書」の続本として『春』と『家』を自費出版した。その結果、江戸時代から引き継がれた出版業者と作家との古い封建的な関係を排除した。そして印税の約束にもとづかない自作の出版はしないという風潮が生まれた。藤村の目指した道がやっと拓いたのである。さらに藤村は、多数の読者を持つ夏目漱石もまた、作家の地位向上に寄与したと述べている。「漱石は金銭のことにかけては一見淡泊に思われがちだったが、自らの著作には高い印税を要求し、定価の二割かそれ以上をもらっていた」という。

令和のいま、作家は自由にものを書くことができ、出版業者との契約においても著作権が保証されるのが当たり前となっている。その陰には藤村の功績があったのだが、それを知る人は少ないかもしれない。そして、その発想は「山国育ちで、すべて自給自足の生活を経験したことから生まれた」と藤村は淡々と書き残している。

【参考資料】

『藤村全集第9巻』より～解題「玉あられ」の後に 島崎 藤村／著 筑摩書房 1976 918シ

「緑蔭叢書」とは

- ・島崎藤村が自身の作品を自費出版するために刊行した個人叢書(シリーズ名)のこと。藤村の初期から中期の作品が納められている。
 - ・藤村自身が資金を調達し、出版社を介さず作品を世に送り出すという近代的な方法を用いた。
 - ・これにより、藤村は作家の地位向上と自立を目指した。
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 第一編：『破戒』（1906年） | 第二編：『春』（1908年） |
| 第三編：『家』（1911年） | 第四編：『微風』（1913年） |
- ・初版の装画： 錦木清方
 - ・題字： 秋山碧城(小諸義塾の書道教師、書家)
 - ・挿入地図：「千曲川流域の図」



(梅津氏所蔵)

『破戒(自家版)』
島崎 藤村／著
日本近代文学館／出版
ほるぷ出版／頒布
1982

【関連資料】

- 『蔦屋重三郎見るだけノート』安藤 優一郎／監修 宝島社 2025.1 210.5ツ
『蔦屋重三郎 別冊太陽』鈴木 俊幸／監修 平凡社 2024.11 289ツ
『「破戒」百年物語』宮武 利正／著 解放出版社 2007.11 361.8ミ
『表現のビジネス』浜野 保樹／著 東京大学出版会 2003.1 778ハ
『島崎藤村コレクション4』国書刊行会 1998.12 910シマ
『稀代の本屋 蔦屋重三郎』増田 晶文／著 草思社 2016.12 マス
『破戒』島崎 藤村／著 新潮社 2005.7 Bシマ
『幼きものに 藤村の童話』島崎 藤村／著 筑摩書房 1979.6 シマ (児童書)

